

地下深部から上昇してきてマグマだまりに蓄えられたマグマは、ゆっくりと冷えていきます。やがて、マグマの一部は結晶化し始め、マグマに溶け込んでいた水蒸気などのガスの一部はマグマに溶け込んでいられなくなり、泡となります。結果的にこの泡の圧力でマグマが上昇し、噴火が引き起こされるのです。



噴き上げられた溶岩が冷えてできた軽石。溶岩の穴は、噴火の際に溶岩が発泡していたことを表す証拠です。

うっかり冷凍庫に置き忘れたビールやコーラが、大変もったいない事態になってしまったら、笑顔で言っちゃいましょう。理科の実験、大成功〜！と。あなたのウツカリを今日こそとちめようとして、いる家族や友だちを、煙に巻けるかもしれません。

理科は役立たず？

「理科の勉強は実生活では役に立たない」と感じている子どもは

小学6年で約4割、中学3年で5割を超えることが、福岡県教育委員会の2003年度学力実態調査で明らかになりました。教科ごとに、学習内容が「生活の中で役に立つと感じることがあるか」と尋ねたアンケートで、理科は「ない」「どちらかといえばない」の回答が小学6年で39%、算数13%、国語23%などを大きく上回りました。中学3年では理科は53%が肯定的な答えで、主要5教科で最も高かったそうです。()

地震や火山の予知は、最先端の科学です。大規模な観測や実験を通して培われた科学と技術が、予知や防災を支えています。また、火山や地震は深刻な災害を引き起こす現象であるとともに、地球の活動を解明するための大きな手がかりでもあります。このような地球規模の現象が、テーブルの上のビールやコーラの噴きこぼれと、同じ物理法則に従っているのです。「実生活では役に立たない」と思われていることが理科離れの原因といえるかどうかは、前述の調査だけではわかりません。でも、身近な自然や実験から学ぶ理科は、日常生活を支える科学の大切な礎

であり、この地球の仕組みを解き明かす科学の礎でもあります。この理科の大切さを子どもに伝えていくことは、私たち大人の役目ではないでしょうか。



▶川の地形を作る実験。大人も子どもも、川の地形ができるしくみを楽しんで学べます。

というわけで、「理科の実験、大成功〜！」という言い訳ではごまかされない家族や友だちには、「生活の中で理科を楽しむ茶目ッダ」と開き直ってみてください。あながち間違いでもないと思うのですが…。

7月31日付西日本新聞の記事を参考にしました。

ミュージアム・コンサート

「サウンド・オブ・サイエンス」

いん石や化石も眠る夜の科学館で、生演奏のコンサートを楽しみませんか？ほんのちょっぴり、サイエンスにまつわるトークもあります。お気軽にお立ち寄りください。どなたでもお楽しみいただけます。

と き 10月23日(土) 午後7時～8時

と ころ 蒲郡情報ネットワークセンター・生命の海科学館 ミュージアムシアター

出 演 ゆき&じょ〜&キッチンガールズ **入場料** 無 料

イベントのお知らせ

生命の海科学館
学芸員 山中 敦子